

## 「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）に関する 関係団体からの意見等

関係10団体（北海道市長会、北海道町村会、北海道都市教育委員会連絡協議会、北海道町村教育委員会連合会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、北海道私立中学高等学校協会、北海道PTA連合会、北海道高等学校PTA連合会）へ意見照会を実施。

意見の概要及び意見に対する道教委の考え方は次のとおり。

I 指針の趣旨等	
意見の概要	道教委の考え方
<p><b>【基本的な考え方】</b></p> <p>○ 「Society5.0時代の対応」では、ICTを活用した物理的距離や都会と田舎の格差の解消が望まれる。</p>	<p>○ 道内のどの地域においても高校生が自らの可能性を最大限に伸ばしていくことのできる多様で質の高い教育環境を提供することを目的に、令和3年4月にT-baseを開設し、道立高校の教育課程の充実を図っています。</p>
II 地域とつながる高校づくり	
意見の概要	道教委の考え方
<p><b>【高校の存続】</b></p> <p>○ 地域創生の観点から、自治体ごとの地域での取組が望まれ、地域を大きく括ることは望ましくない。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少に伴い、市町村単位で高校の配置を考えていくことが難しくなっている状況にあるため、市町や一定の圏域単位で高校の役割分担や定員調整も含めた具体的な配置の在り方を検討し、高校の教育機能の維持向上を図っていきます。</p>
<p>○ 地域の中学校も強く高校とつながっていきたいと思っており、単なる数合わせではなく、地域にとって魅力あるかどうかを力点を置いてほしい。</p>	<p>○ コミュニティ・スクールの導入等を通じ、地域と連携した高校の魅力化に取り組んでおり、学校と地域の連携・協働をより一層推進するため、学校と地域が一体となった教育活動の推進体制の構築や、ICTの活用や地域の産業界等との連携などによる教育活動を推進していきます。</p>
<p><b>【将来を見据えた地域とともに高校づくりを考える仕組みの構築】</b></p> <p>○ 「将来を見据えた高校づくりを地域とともに考える仕組みの構築」など誤解のない表現へ修正してはどうか。</p>	<p>○ 誤解のない表現への修正を検討します。</p>
<p>○ 地方の高校の小規模化は、中学生が急激に減少していることが要因の一つであるが、卒業後の進路の保証が大きく影響しているのではないか。</p>	<p>○ 少子化に伴う中学校卒業生数の減少により、高校の小規模化が進み、設置できる科目が限られること、卒業後の進路への不安、同世代の子どもたちの考え方や個性などに触れる機会の減少といった様々な課題があると考えております。</p>
<p>○ 「地域連携特例校」という呼称は、高校の存続があたかも特例的、かつ、時限的に認められているかのような印象を抱かせ、地域における入学者確保対策にも影響を及ぼすことから、見直すこと</p>	<p>○ 地域の教育資源を積極的に活用するほか、遠隔授業により質の高い授業を確保するといった「地域連携特例校」の趣旨をより一層浸透させていきたいと考えています。</p>
<p><b>【T-base】</b></p> <p>○ 特例校や離島に限らず、1学年1学級の高</p>	<p>○ T-baseについては、令和3年度に開設し</p>

<p>校への早期拡充・実現について、明記していただきたい。</p>	<p>たため、今後、取組の成果や課題を検証することから、具体の記載は行いませんが、特例校や離島に所在する高校以外の小規模校への授業配信や進学講習の合同配信について検討していきます。</p>
-----------------------------------	--

<h3>Ⅲ 活力と魅力のある高校づくり</h3>	
<p>意見の概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p><b>【活力と魅力のある高校づくり】</b></p> <p>○ 全道一律的な考えによらず、市町村の実情に応じた「特色ある高校づくり」を進めていただきたい。小規模であっても地域の特性や、これまでの高校支援の状況などを総合的に勘案して、道教委が主体的となり、それぞれの地域に寄り添って「特色ある高校づくり」を進めていくことが重要。</p>	<p>○ それぞれの高校の機能や特色、求められる役割などを踏まえ、生徒の学習ニーズに応える特色と魅力のある高校づくりを進めていきます。</p>
<p><b>【普通科】</b></p> <p>○ 普通科に「教職コース」を創設し、教員を目指す人材を高校段階から育てていくことで、人材の確保につなげ、魅力あるコースの先駆けとして、道外からの希望者も見込めるのではないかと。</p>	<p>○ 教員志望者や教員採用選考検査受検者を増加させることは、北海道として取り組む必要がある課題と考えています。「コース制」にすることで、高校の魅力化・特色化を図ることができる一方、コースに在籍する生徒が進路変更を希望した場合、柔軟に対応することが難しいことから、道教委では「北海道高等学校みらいの教員育成プログラム」や、「高校生の小・中学校等におけるインターンシップ」、「教員養成セミナー」などを実施して、高校生段階から教員を目指す生徒の育成に取り組んでいます。</p>
<p>○ 近年進められている普通科改革の成果の検証を適切に行い、高校づくりに関する指針等に的確に反映させること。</p>	<p>○ 今年度、国の普通科改革支援事業の指定を受け、普通科新学科の令和6年度に設置に向け、実践的な調査・研究を進めており、取組状況を踏まえ、普通科の特色化・魅力化に取り組めます。</p>
<p><b>【専門学科（理数科、体育科及び外国語等に関する学科）】</b></p> <p>○ 「引き続き適切な設置となるよう検討します。」とあるが、適切な設置とはどのような状態のことか。</p>	<p>○ 中学校卒業生数や生徒の進路動向、全道的な学科の設置状況等を考慮し検討します。</p>
<p><b>【専門学科（職業学科）】</b></p> <p>○ 次の内容を盛り込んで頂きたい。 「少子高齢化による人材不足がますます叫ばれる中で、職業学科の生徒は、高校卒業後社会に出ていく機会も多く、即戦力として必要な人材となる。このため、高校在学時にインターンシップ等の職業実地体験や、資格取得の機会を3年間通じて数多くしていく必要があると考える。特に職業実地体験は、1年生時から3年生時にかけて段階的により実社会に応じた内容にするといったことが必要と考える。」</p>	<p>○ 地域を支える最先端の職業人の育成に向けて、地域産業界で直接学ぶことができるよう、産業界と高校が一体となった社会に開かれた教育課程の推進に向けて取り組むこととしています。</p>
<p>○ 「〇〇教育の在り方を検討します。」とあるが、教育の在り方の検討では幅が広すぎることから、学科構成等の検討などとした方が馴染むのではないかと。</p>	<p>○ 中教審答申や学校教育法施行規則等の一部改正など、国の動向を踏まえ、高校における学科の在り方を検討する必要があると考え、「〇〇教育の在り方を検討します。」としています。</p>
<p><b>【工業に関する学科】</b></p>	

<p>○ 工業高校を欠員状況のみで統廃合することがあってはならない。時代を見据えた学科転換カリキュラム再編のほか、地域連携、企業連携の一層の推進を図るなど特色・魅力のある学校づくりの検討と併せ、在り方について熟考いただきたい。</p>	<p>○ 中学校卒業者の進路動向や全道的な学科の設置状況、地域の実情等を踏まえ、高校の特色化や魅力化、生徒のニーズに応える配置の在り方や教育課程の編成等について検討することが必要と考えています。</p>
<p><b>【総合学科】</b> ○ 総合学科の小規模校について、設置の際に想定した系列や多様な科目の配置が困難なときは、普通科等への学科転換も視野に入れた検討を進めるとしてはどうか。</p>	<p>○ 小規模化した総合学科校については、地域や学校の実情に応じて個別に対応を検討していることから、指針への具体的記載は行わない考えですが、今後とも関係市町村への早期の情報提供などに努めます。</p>
<p><b>【中高一貫教育校】</b> ○ 公立校224校のうち、現在2校というのは少ないのではないかと。都市部などに設置することを検討してはどうか。</p>	<p>○ 登別明日中等教育学校では、6年間で3期に分けた弾力的な教育課程を編成するなど、特色ある教育活動を展開しており、生徒一人一人の個性や創造性を重視した教育に取り組んでいます。 今後とも、取組を充実させるとともに、その成果を全道の中学校や高校に発信していきます。</p>
<p><b>【単位制】</b> ○ 現存の普通科単位制の学校が2間口以下になった場合の取扱いについて、明記してほしい。</p>	<p>○ 小規模化した普通科単位制高校については、地域や学校の実情に応じて個別に対応を検討していることから、指針への具体的記載は行わない考えですが、今後とも関係市町村への早期の情報提供などに努めます。</p>
<p><b>【アンビシャススクール】</b> ○ 都市部以外の地域にも配置することは今後必要であり、地域創生の一助となり得る。</p>	<p>○ 学校選択幅の少ない通学区域に導入した場合、アンビシャススクール以外で学びたい生徒のニーズに応えることができない可能性があるため、学校の配置状況を考慮するとともに、導入校の取組の課題や成果について検証し、学科転換等も視野に入れながら導入校の拡大を検討します。</p>
<p>○ 「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や～に重点を置いた」について、「知識・技能」は学びの三本柱の一つであることから、「学びの基本の確実な定着」としてはどうか。</p>	<p>○ アンビシャススクールにおいても、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養いますが、基礎的・基本的な知識・技能の定着や社会生活や職業生活に必要な能力・態度の育成について、特色ある取組を行うことから、このような記載としています。</p>
<p><b>【定時制課程】</b> ○ 定時制課程について、中学生に柔軟に学ぶことができる学校であることが十分に知られておらず、進路選択の選択肢に入っていないと思われることから、PRに力を入れる必要がある。</p>	<p>○ 高校による中学生やその保護者等を対象とした学校説明会や中学校教員への説明など、地域の中学校に対する情報発信の充実について、検討します。</p>

IV 公立高等学校配置計画	
意見の概要	道教委の考え方
<p>【圏域協議】</p> <p>○ 圏域としてどの地域は、どんな考え方で整理するかを示すべき。</p> <p>○ 圏域とは何を指すのかを、具体的に示すことが必要ではないか。</p> <p>○ 再編整備の留保期間に期限を定めることからも、圏域での必要な調整を含めた検討は、集中取組期間の設定前に行うべきであり、指針において、各圏域の設定や実施年度など具体的な方向性を明記していただきたい。</p>	<p>○ 圏域設定は、通学可能圏域を基本とすることを想定していますが、設定に当たっては、関係市町村の意向も踏まえたいと考えているため一律の考え方は示しておりません。          なお、公共交通機関で概ね1時間程度で始業時間までに通学できること、生徒の通学実態があるなどを要件として想定しています。</p> <p>○ 圏域での検討は、将来的に大幅な中学校卒業者の減少が見込まれるなど高校配置の在り方に係る中長期的な検討が必要な場合に市町村の参画を得て行うことを想定しています。          そのため、圏域設定や実施年度は、関係市町村の意向も踏まえながら個別に検討したいと考えています。</p>
<p>【第1学年1学級の高校の取扱い】</p> <p>○ 「第1学年の在籍者数が2年連続で20人未満となった場合は、再編整備を進める」と明記されたことは、1学級の小規模校の存続が大変厳しい状況になることから、学校規模や人数が前提となっている高校配置計画ではなく、高校が地域で果たしている役割や取組を考慮した柔軟な対応を望む。</p> <p>○ 小規模校においても学校を核としたまちづくりや地域とつながる高校づくりを具体的に取り組んでいる場合には、地域連携特例校と同様の再編基準の適用をお願いしたい。</p> <p>○ 全道どの地域に居住していても、自宅から通学できる高校教育の機会を保障することを目的とし、20人未満でも存続させるような新たな学校の形態を検討、探究してはいかかが。</p>	<p>○ 小規模校では、きめ細かな指導や地域に根ざした教育活動の展開などで成果をあげているなど、特色ある取組を行っている一方で、教育課程編成の制約や生徒同士が切磋琢磨する機会が乏しいなどの課題もあると考えております。          道教委としては、活力ある教育活動の展開のために、一定の再編整備基準の設定は必要なものと考えており、今後とも市町村と協働し生徒の多様な進路希望や学習ニーズに対応できるよう、魅力ある高校づくりに努めてまいります。</p> <p>○ 活力ある教育活動を展開するためには、一定の生徒集団が必要と考えていますが、新たに示した圏域協議の仕組みでは、圏域内の高校の特色・役割を踏まえ、20人未満となっても圏域で必要な定員調整を行うことで小規模校を存続させることも選択肢として提示しています。          圏域全体で生徒のニーズに合った高校教育の場を確保するため、地域とともに高校配置の在り方を検討してまいります。</p>
<p>【地域連携特例校等】</p> <p>○ 再編整備を留保する特取的取扱いを定めた「従来の指針の趣旨」が堅持されるよう、次のおり削除          「～高校の特色化や魅力化に取り組む集中取組期間として再編整備を一定の期間留保し、入学者の確保を図ります。          ただし、集中取組期間経過後も生徒数の増が見込まれない場合のほか、集中取組期間中であっても、5月1日現在の～」</p> <p>○ 地域連携特例校等の再編整備の留保の取扱いについて、複数の町村や圏域単位において高校配置の在り方を協議・検討する場合、当該合意事項を優先すること。</p>	<p>○ 少子化に伴い、一定の入学者数の継続的な確保が難しい中でも、地域の教育機能の維持向上などの観点から、できる限り存続を図っていきたいとの考えのもと、「集中取組期間」を設け、道教委と高校、地域が一体となって特色ある教育活動や地域と密接に連携した取組を行うこととしています。</p> <p>○ 最終的には設置者が責任を持って判断すべきと考えますが、市町や一定の圏域単位で高校の役割分担や定員調整も含めた具体的な配置の在り方を検討する際は、各高校の役割等を勘案した高校配置が必要であることを踏まえながら、圏域全体で必要な定員調整をあらかじめ行うことで存続を図ることも選択肢として、具体的な高校配置の在り方を検討しま</p>

<p>○ 集中取組期間の設定方法・期間等に係る当該地域への丁寧な説明を行う必要がある。</p>	<p>す。</p> <p>○ 集中取組期間は、地域の実情や生徒の実態等を踏まえて設定するものであり、道教委と高校、地域が一体となって高校の特色化・魅力化に取り組むことから、引き続き丁寧な説明に努めてまいります。</p>
<p>○ 短期間で一律の判断は、その高校へ進学を希望している子どもたちの期待を裏切り、地域創生に向けた取組全体に支障が生じる懸念があることから、総合的に判断する仕組みの中で、再編整備を検討してほしい。</p>	<p>○ 再編整備に当たっては、一律に行うのではなく、集中取組期間中において、入学者数や地域の中卒者数の見通し、道外からの出願者数の傾向、地元進学率の状況などのほか、特色ある教育活動や地域と密接に連携した取組、またその効果を総合的に勘案しながら判断します。</p>
<p><b>【定時制課程】</b></p> <p>○ 定時制課程について、「5月1日現在の第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となった場合は、再編整備を進めます」とあるが、定時制の魅力を中心にPRしてから判断すべき。単に数値条件に合致したことのみをもって決定するのではなく、そもそも設置校が限られていることや、地域性なども併せて考慮いただきたい。</p>	<p>○ 定時制課程については、全体の入学者数が減少傾向にあり、複数年にわたって第1学年の在籍者数が10人未満となっている高校も見られます。</p> <p>定時制課程についても、極端に在籍者数が少ない状況が続くことは、生徒にとって望ましい教育環境を維持することが難しくなり、再編整備の検討が必要と考えますが、様々な入学動機を持って生徒が進学していること、また、年度ごとの入学者数の変動が全日制と比べ、大きいことから、より慎重に入学者数の推移を見極める必要があると考え、再編整備基準を「3年連続10人未満となった場合」としたところであり、適切な設置となるよう検討します。</p>
<p>○ 更なるICTの活用や、企業や社会教育との連携をさらに強化し、特色ある教育を実践していただきたい。</p>	<p>○ ICTの一層の活用に取り組むとともに、教育課程の工夫・改善に努め、特色ある高校づくりに取り組んでいきます。</p>
<p><b>【公立高校と私立高校の間における定員調整】</b></p> <p>○ 次のとおり、項目の追加を要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者選抜の結果、学級減となった高校の取扱い</li> </ul> <p>2年連続で、入学者選抜の結果、学級減となった場合は、再編整備を進めます。</p>	<p>○ 2次募集後に学級減となった高校については、地域ごとの中学校卒業生数の状況や生徒の進路動向などを十分踏まえるとともに、市町村が実施する進路希望調査の結果などを勘案するほか、関係市町村等の意見も幅広く伺いながら検討し、次年度の入学者数が入学定員を超える可能性がある場合は、生徒の進学先を確保する観点から、学級増が必要と考えています。</p>

V 教育諸条件等の整備	
意見の概要	道教委の考え方
<p><b>【道外からの入学者の受入れ】</b></p> <p>○ 市町村に1校しかない高校については、道外からの生徒の出願を可能にするなどして、地域はもとより、学校にとっての活性化を図るべき。</p>	<p>○ 令和5年度入学者選抜から「2学級以下の学校のうち、地域の教育資源を活用した教科・科目等を3単位以上履修できる学校」について、道外からの入学者の受入れができるよう緩和したところであり、今後、出願状況や合格状況、地域特性や地域からの要望等を踏まえながら、入学者の受入れの拡大について検討します。</p>
<p><b>【通学区域】</b></p> <p>○ 「通学区域の取扱いを検討します。」とあることから、現行の19学区についても具体的に示すことが必要ではないか。</p>	<p>○ 現行の19学区については、十分周知されており、現行指針と同様に具体的に示さず「19学区」としています。</p>

その他	
意見の概要	道教委の考え方
<p><b>【アンケート結果】</b></p> <p>○ 中学生やその保護者からの総合学科に対する理解状況等の結果を活用する方が説得力があるのではないか。</p>	<p>○ 中学生やその保護者を対象とした意識調査として令和3年度に「高校教育に関するアンケート」を実施しましたが、質問項目を精選する必要があったことから、総合学科の認知度については加えませんでした。 こうしたことから、日常的に生徒や保護者に接している学校長に行ったアンケート結果を活用しています。</p>
<p><b>【学校規模】</b></p> <p>○ これまで同様に学校規模・再編ありきの指針に感じる。</p>	<p>○ 高校に求められる機能や役割、目的や目標などを考慮すると、一定規模の生徒及び教職員の集団を維持し、学校規模を確保していくことは大切と考えていますが、各地域ごとにそれぞれの高校の機能や特色、求められる役割などを踏まえて高校配置を検討することが望ましいと考えています。</p>
<p>○ 生徒の多様なニーズに合った、広い選択肢があることが望ましい。</p>	<p>○ 社会の変化や生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、学校や地域の実情に応じて、多様なタイプの高校づくりを進めています。</p>
<p><b>【その他】</b></p> <p>○ 全日制課程と定時制課程のリード文について、書きぶりの整合性を図ることが必要ではないか。</p>	<p>○ 定時制・通信制課程については、国の中教審初等中等教育分科会等においても議論されているところであり、定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応がこれまでに以上に求められる状況を踏まえ、全日制とは異なる記載としています。</p>